

# 神様のお使いは白いオオカミ

—宮城の三峯神社・山津見神社信仰—

村田町歴史みらい館

館長 石黒伸一郎

## ◆動物としてのニホンオオカミ

世界で最も小型のオオカミで、東北から九州に棲息していました。体長は、1メートル前後で、体毛の色は茶色です。北海道には、エゾオオカミがいました。オオカミは、人畜に危害を加えるということで、江戸時代から買い上げの対象でした。明治時代になると、完全に絶滅の対象となり、明治30年代後半に絶滅したと言われています。明治38年、奈良県東吉野村で捕獲されたオオカミが最後と言われています。しかし、まだ絶滅しておらず、埼玉県の奥地の山に分け入り、生きているオオカミを探している人もいます。

## ◆信仰の対象としての狼

信仰対象のオオカミは、棲息していたニホンオオカミそのものではありません。体毛の色は白色です。「大口真神」、山神のお使い、あるいは「ご眷属」とも呼ばれています。狼を祀る神社は、埼玉県秩父、東京都奥多摩方面に多いです。狼をお使いとする主な神社は下記になります。

岩手県	奥州市	三峯神社
福島県	飯舘村	山津見神社
東京都	青梅市	武蔵御嶽神社
埼玉県	秩父市	三峯神社
埼玉県	長瀨町	宝登山神社
埼玉県	小鹿野町	両神神社
静岡県	浜松市	山住神社



埼玉県秩父市・三峯神社  
ここが本社です。江戸時代  
は、三峯山大権現



岩手県奥州市衣川・三峯神社  
江戸時代に正式に許された分  
霊社と言われています

## I. 三峯神社の信仰

埼玉県秩父市の三峰山(標高 1102m)に鎮座しています。奥宮があります。日本武尊が東征の途中、三峰山に登り、神威の擁護を願い、仮宮を造営してイザナギノミコトとイザナミノミコトを祀ったのが始まりと伝わります。雲取・白岩・妙法の三つの山を、合わせて三峰山と呼ばれています。近世は、三峯山大権現と呼ばれていました。修験のかかわりがあると言われています。別当寺院は、観音院。本地仏は、十一面観音。それを現す梵字は「キャ」です。「三峯山」「三峯山大権現」の石碑の上に、「キャ」梵字が彫られているものもあります。明治に入ると、三峯神社と社名が変更されました。ご眷属の白狼は、「おいぬ様」と呼ばれています。「御眷属拝借之牌」というお札を1年間

借ります。三峯講社の分布は、北は礼文島、南は徳島県と、非常に広い範囲です。三峯神社の御利益は、火難除 盗難除・疾病除・田畑を荒らす猪鹿などの害獣除・狼除・四足除・武運長久・養蚕守護などですが、その中心は災厄除けです。江戸時代は、江戸の町でコレラが流行った際は、コレラ除けとして非常に多くのお札が刷られました。祭日は、9月19日です。縁日は、19日。

東北地方の三峯神社の分霊社は、下記のように50社ほどあります。県別にしますと、下記のようになります。

- 青森県 1社
- 秋田県 12社
- 山形県 1社
- 岩手県 9社 石碑は非常に多い、200基以上
- 宮城県 16社
- 福島県 11社

「三峯山」などの石碑の前では、祭日に「狼祭り」が執り行われていました。仙台市・北中山の「狼石」のお祭りは、毎年旧4月1日です。赤飯のオフカシを炊き、それを握り飯にして三峯の石碑に供える分と、お参りする人の分に、別々にしてお櫃に入れて背負っていきます。碑の前に松の葉を敷いて。その上に赤飯を供え、石碑を拜んでから、年寄り持参のお神酒をいただきます。

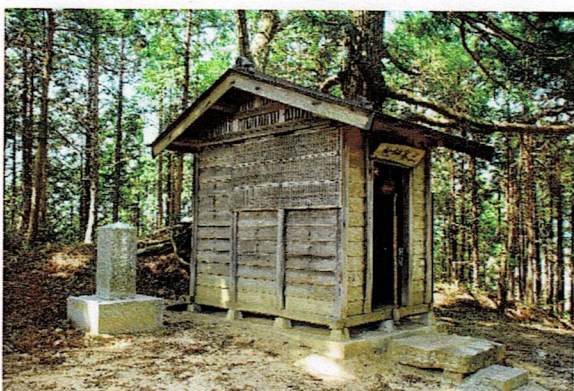
簡単にまとめますと、宮城県の三峯山(三峯神社)の信仰は、江戸時代中期の明和年間(1764~1772)頃に入ってきたと推定されます。江戸後期から明治中頃にかけて、多くの石碑が立てられ、その頃が最盛期と推測されます。石碑の造立は、昭和の初め頃までです。大崎市内が最も多いようです。県北では、衣川の三峯神社が信仰され、中央部から県南にかけては、秩父の本社の信仰と推測されます。



栗原市若柳・三峯神社



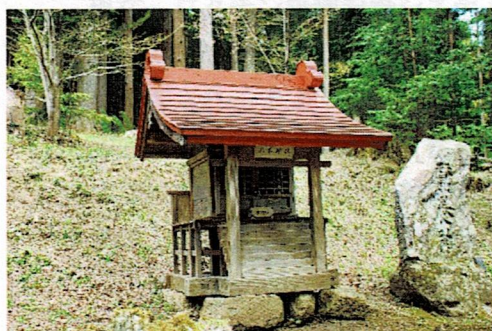
丸森町字廻倉・三峯神社、祭日の風景、4月10日



角田市高倉・三峯神社



角田市高倉・三峯神社・祠の棟飾り



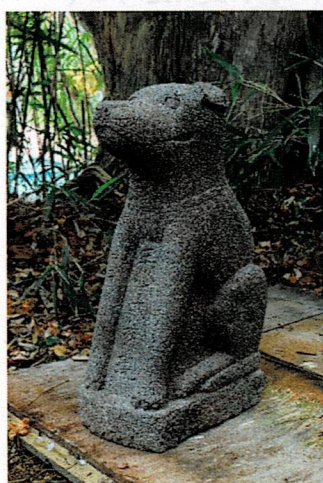
川崎町支倉・熊野神社境内の三峯神社  
『柴田郡支倉村風土記御用書出』(安永7年)に、「三峯権現社」と記載があります



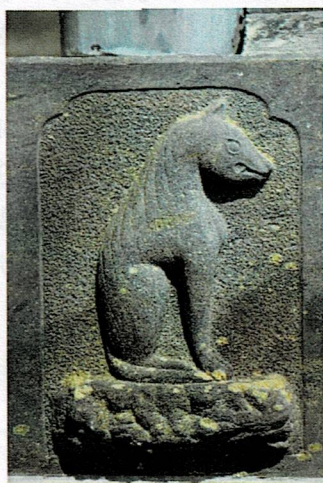
白石市白川小奥・石神社、月輪に入る「梵字(キャ)三峯」、明和年間(1764~1772)、今のところ最古



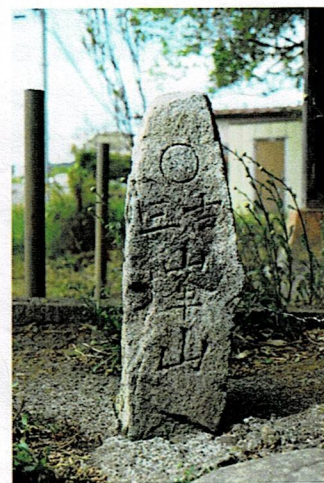
大崎市三本木中谷地、「梵字(キャ)三峯山大権現」、天保15年(1844)



加美郡加美町下多田川、天神社、狼の石像「三峰大権現」、明治30年(1897)



石巻市住吉町・三峯神社、津波で破壊されましたが、復興されました。台座に彫られた狼の浮き彫り。明治36年(1903)6月19日



黒川郡大和町宮床字牛喰、円相「古・三峯山」の併刻  
大正5年(1916)

## Ⅱ. 山津見神社の信仰

福島県相馬郡飯館村佐須の、虎捕山に鎮座しています。永承6年(1051)に創建され、元和2年(1616)に再建されたと伝わります。源頼義による橘墨虎退治の言い伝えがあります。山の神のお告げにより、白狼の足跡をたどって討ち取りました。そのことにより、頼義は山神の威徳を感じて、山頂に祠を建てたと伝わります。江戸時代は、「虎捕山神」(虎取山神)と呼ばれていました。明治に入ってから「山津見神社」に社名が変更されました。ご利益は、火難除・盗難除・豊作・豊漁・交通安全・安産・酒造・養蚕などです。祭日は、春が3月17日。秋は、10月15・16・17日。縁日は17日。10月17日は、山御講の日。講員が宿に集まり、山仕事の安全などを祈念します。代参者が、お礼をうけに参拝します。3日間で、2万人以上が参拝したそうです。拝殿は、明治37年頃に建てられました。その天井は、大きく三つに分かれていました。格天井で、各板に狼が描かれていました。総数は、237枚です。しかし、平成25年4月1日に全焼しました。その後、社殿は再建され、天井絵は東京藝術大学の大学院生さんたちが描きました。

山津見神社の分霊社は、現時点では下記のように65社確認されています。

北海道	1社
岩手県	1社
山形県	3社

宮城県 12社(仙台市以南)  
 福島県 46社  
 新潟県 2社

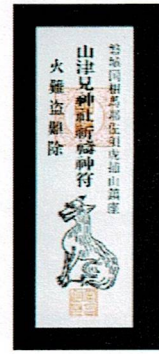
宮城県の虎捕の山神社(山津見神社)の信仰は、江戸時代中期の正徳年間(1711~1716)頃から入ってきたものと推定されます。分霊社や石碑の分布からみますと、その信仰の範囲は、仙台市から丸森町にかけての、県南部に限定されます。県北部では見つかっていません。特に、山津見神社に近い丸森町では今でも盛んです。



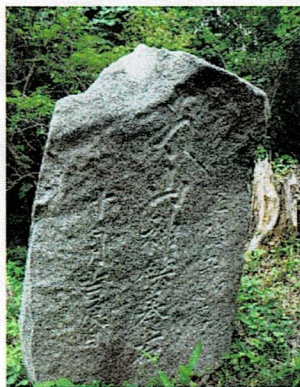
焼失前の山津見神社の拝殿  
 福島県相馬郡飯舘村佐須に鎮座



狼の天井絵、237枚有りましたが、平成  
 25年4月1日に全焼し失われました



お札、狼の絵



伊具郡丸森町字山古谷、「梵字(キヤ)山神供養石」正徳5年(1715)、  
 県内最古と推定されます

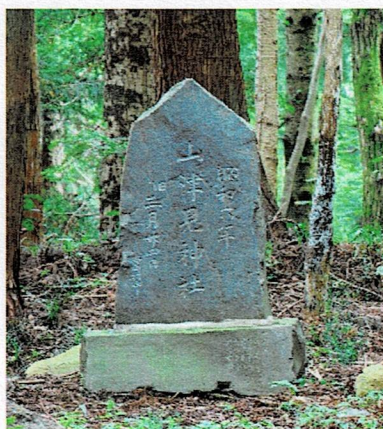


伊具郡丸森町字柳田、竇頭  
 盧地蔵堂、「梵字(キヤ)山  
 神」文化15年(1818)

※江戸時代に立てられた虎捕山神と、そのほかの山神の石碑を見分けるには、立てられた月日を調べます。虎捕山神の石碑では、3月17日、3月吉日、10月17日、10月吉日と彫られていることが多く、それ以外の月でも、縁日の17日と彫られていることもあります。梵字が、十一面観音を現す「キヤ」と彫られていることでも、識別できる可能性があります。



伊具郡丸森町大内、佐野の山  
 神社へ奉納された狼の木像



村田町関場字愛宕山、「山津  
 見神社」、昭和6年(1931)



岩沼市南長谷、「虎取山津見神」、明治15年(1882)。多数の人名の中に、「清野鶴之助」という名前があり、これは本社の拝殿前にある石燈籠にも見られます